

0・1・2歳児の初めてののお話えほん

ひかりのくに **プエパオ**

あそびのえほん テーマ：探し絵

『**まてまて くっく**』

5領域
との
関わり

人 言 表

指導計画事例 ・よく見て楽しむ



ねらい

活動内容

環境や援助

からもご活用ください。↓

探し絵ページ

ねらい

一緒に楽しむ

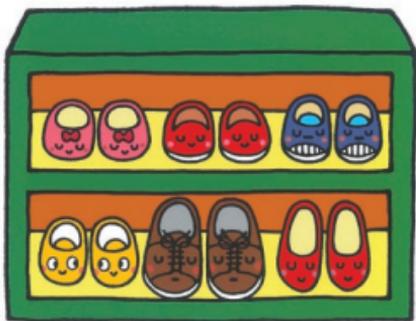
活動内容

・探しっこを楽しむ



環境や援助

*積極的な子どもだけでなく、後ろの方で黙って見つめている子どもにも、ひとりひとりの子どもの前に絵本を持っていき、声をかけて問いかける。



読んだあとは…

ねらい

ふれあい遊びを楽しむ

活動内容

・かくれんぼ遊びでスキンシップを楽しむ



環境や援助

*実際にかくれんぼ遊びをする。すぐに見つけてしまわずに、少しずつ近寄ったり、時には遠ざかったりして、ドキドキ感を高める。

*見つけたら、大げさに「ばあ！ みーつけた！」などと言って抱きしめる。

プチパオで
つなごう
園と家庭

プチパオ読んで

幸せホルモンプラス

おうちでプチパオを楽しむポイントをご紹介します。コピーしたり、切ったりしておたよりなどにお使いください！



動画で
チェック！

2月号 ふれあいポイント 「かくれんぼ遊び」



2月号は探し絵（探しっこ）のお話です。実は心理学的には、かくれんぼ遊びは愛着の形成そのものです。子どもはパパママから見えない場所に一人で隠れることで、ドキドキしています。そしてパパママに見つかると、ふれあえた喜びと安心感でオキシトシンが分泌されて、不安定な気持ちを回復できるのです。

パパママがいつでも『安全基地』として支えてくれるからこそ、子どもは安心して外に羽ばたいたり、一人でも自分の気持ちを制御できるようになっていくのです。

さて『かくれんぼ遊び』は、日常の中でもできます。例えば「〇〇ちゃん、どこに行ったのかな？ どこどこ？」と探すふりをしてみましょう。子どもは喜んで隠れたふりをするでしょう。

この時、すぐに見つけるのではなく、わざと間違えながら探すことで、より楽しみながら愛着のきずなを深めていくと良いでしょう。

幸せホルモンとは

オキシトシンは「幸福ホルモン」とも呼ばれ、親子のふれあいをする時にも子どもにもたくさん分泌されるホルモンです。その作用は、大切な親子の愛着のきずなを築いたり、ストレスを小さくしたり、睡眠の質を高めるなど様々な効果があります。



山口 創

桜美林大学リベラルアーツ学群教授。専攻は健康心理学、身体心理学。幸せホルモンとふれあいの関係について研究している。「幸せになる脳はだっこで育つ」（廣済堂）など著書多数。「朝イチ」「世界一受けたい授業」などへの出演、各種雑誌媒体の監修もしている。